

はやま もり 麓山の杜みどり通信

発行元 公園振興事務所「とがりふれあい館」
連絡先 〒963-8876 郡山市麓山1-16-17
TEL924-2194 FAX924-2195

風薫る五月をあなたも感じてみませんか

杜の花壇 満開のチューリップ



平成24年度「みどり講習会」

次回 6月10日(日)午前・午後開催
場所 麓山の杜『杜のエントランス』

テーマ 「記念樹の育て方初歩講座」
時間 午前 10:30 午後 13:00

※ワンポイント サツキツツジ等の花後の管理
薬剤散布など(希望者は参加可)

記念樹交付「10時～15時」他は事務所へ

ガーデニング
ワンポイント

花咲き、新緑がまぶしい時期です

爽やかな五月の風をうけ、葉を広げそしてツツジやボタンなど多くの花が競うように咲き私たちの五感を心地よく刺激してくれています。誰もがそのような自然の営みに接して自分の感性を高めると共にその逞しさや素晴らしさに、明日への力を貰えるような気がします。震災から二度目の春を迎えた今、以前のように自然と向き合えたら幸せですね。

【水やり】 この時期の植物は水を多く必要とします。水不足により良い花を見る事が出来ない場合や枯らしてしまう場合もあります。毎日少しずつあげるのではなく、乾いたらたっぷりとあげるのがコツですよ。水やりは意外と難しい作業です。自分の喉なら渴きがわかるのですが。

【肥料】 多くの樹種はこの時期にはあげません。軟弱に育ちやすく病虫害の被害を受けやすくなります。ツツジなどは開花後にお礼肥をあげます。

【病害虫防除】 カエデ類をはじめとしてアブラムシが新梢に発生します。発生すると排泄物で樹の下が濡れたような状態になります。マサキやマユミなどはエダシャクの食害を受けやすく葉を一枚残らず食べられてしまう事があります。ただ葉が軟らかい時期の薬剤散布は薬害の恐れがあります。アブラムシには予防の意味合いでアセフェート粒剤の定期的な散布が効果的です。また大事な松を守るのには枯れの原因となるマツノマダラカミキリを防除する薬剤散布が必要になります。

【剪定】 針葉樹の刈込剪定の適期です。刈った後から直ぐに萌芽するため切り口が目立たず綺麗に仕上がります。秋咲きの樹木も早い時期に剪定し樹形を整え、花芽を付けるようにします。ツツジ類は花後に剪定をします。樹勢を弱めないためにシャクナゲなどは花柄を摘み結実を防ぎます。マツのみどり摘みは早めに行います。形を整えるには大事な作業です。

【植え替え】 この時期はむきません。常緑樹は新梢が固まる梅雨の頃まで待ちます。新芽が伸びだした今頃は水分を多く必要とし、そしてまだ葉が充実していないために枯らしてしまいやすいです。ただし鉢植えの場合は大丈夫です。

記念樹交付日イベント・緑化相談等予定表

次回交付日	みどり講習会	季節のワンポイント
6月10日	記念樹の育て方初歩講座	サツキツツジ等の花後の管理 薬剤散布など

意外と知らない植物の世界

前号まで三回にわたり除染の話を載せましたが、今回から本来のみどりの話題に戻したいと思います。放射能汚染はこれからも長く向き合っていかなければならない問題です。ただそれを恐れるだけで樹木や芝生が悪の根源のように捉え、伐採や撤去だけが総てとは考えて貰いたくありません。そこに落ち葉が堆積しているからこそ、そこに物質は留まっているのです。なければ流れ出したり地中深く浸透しやすくなり、除染作業は大変になります。このような福島県の現状ですが、三春の滝桜の映像がNHKをはじめ何度もながされ日本全国の人達にその素晴らしさをまたもう一度知ってもらうことができたと思います。長い時代を生きいまだに咲き続けるその生命力に言葉には表すことができない力強さを感じます。ちなみに滝桜は単木としては岐阜県の根尾谷淡墨桜などとともに初めに天然記念物に指定された名木です。それほどに貴重な巨樹です。

では話を戻しましょう。私達の身近にありながらも意外と知らないケースは多く存在します。この文章を書いている私自身がその代表かもしれません。滝桜はエドヒガンザクラの系統の品種です。ではエドヒガンはどのような形をした桜なのでしょう？滝桜のようにシダレザクラの形をしているのでしょうか？そもそもエドヒガンザクラがどれかもわかりません。開成山公園のさくら通りに面した所の大径木などがそれにあたります。樹名板がありますので今度よく見てください。そうすると私達が普段に見慣れているソメイヨシノなどと同じように上に枝を伸ばした姿をしています。田村町守山(JR水郡線 磐城守山駅近く)にも見事な大径木があります(弥明の桜と呼ばれています)。

それがなぜ枝垂れ性の形になったのでしょうか？

幹や枝が遺伝的変異により変化したものだそうです。植物ホルモンの一種、ジベレリンのバランスの変化により枝が太らず伸び過ぎるために枝垂れるそうです。元来、植物は光を求めて重力に反して上に伸びていきます。もし傾いたらそれを矯正しまた上に向かって伸びていくのですが、枝垂れ性はその矯正しようとする力が働かないためにあのような形になったそうです。(日本女子大学 中村先生による研究) 枝垂れ性の樹木は、サクラのほかにも多く存在します。



みみょう (弥明の桜)

田村町守山(JR水郡線 磐城守山駅近く)
お見逃しの方は、来年是非ご覧になって下さい。